



健康支援課
☎973-3209

うるま市の糖尿病の実態

世界糖尿病デー 11月14日



11月14日は、世界糖尿病デーです。世界中の名所や建物が、シンボルカラーのブルーでライトアップされ、各地でイベントが行われます。

では、病気が軽い段階で外来に通院する者は少なく、重症化して病院にかり、医療費が多くなっている状況があるようです。

く場合には糖尿病専門医への助言が望ましいとなっています。

うるま市の糖尿病の実態

沖縄県の糖尿病の実態を見てみると、都道府県別年齢調整死亡率より、沖縄県は糖尿病を原因とした死亡が男性、女性ともに第1位となっています。うるま市の国民健康保険加入者の外来通院による糖尿病治療者の状況をみると、沖縄県平均を下回っている状況となっています。

しかし、入院状況を見ると、高額医療費を必要とする、糖尿病が原因でリスクが高まる心臓病や、透析患者が沖縄県平均の割合より高い状況となっています。糖尿病は、生活習慣病と言われており、適正な医療管理によりコントロールが可能ですが、うるま市国民健康保険加入者の状況

糖尿病のコントロールの指標について

糖尿病治療のコントロールの指標としてHbA1c (HbA1cとは過去1〜2か月の平均血糖値を反映しています) がありますが、HbA1cが6.1を超えると、動脈硬化がすすみ、心臓病や脳血管疾患の危険性が高まります。さらに、HbA1c7.0を超えると、糖尿病の3大合併症である、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症、糖尿病性神経障害の危険性が高まります。これらの、合併症を予防するために、日本糖尿病学会では表1のように治療の評価基準が出されており、HbA1c5.8未満では優良、HbA1c6.5未満では良好、HbA1c8.0以上が3か月以上続

【表1】

HbA1c指標	評価基準
5.8未満	優良
6.5未満	良好
8.0以上が、3か月以上続いた場合	専門医の助言が望ましい

症専門医などが連携して、糖尿病患者の病態に応じて治療にかかる医療連携のシステムが構築されてきています。より良く糖尿病をコントロールするために、必要に応じて病院へ治療の相談をしていくことが重症化予防につながります。11月14日は、世界糖尿病デーとなっています。今一度特定検診などで自分の血糖検査値を確認し、重症化予防について考える機会にしてみてくださいいかがでしょうか。

適切な医療への受診が大切です!

沖縄県では、糖尿病治療を行うにあたり、糖尿病の境界型などへ対応する病院、糖尿病の初期や安定期治療を行う病院、HbA1c8.0以上が3か月以上続くなど、コントロールが難しい場合に対応する病院や、さらに合併症には腎臓専門医、神経

糖尿病医療連携

* 下記の医療機関で連携する

- 糖尿病境界型対応病院
- 初期・安定期治療病院
- 糖尿病専門治療病院
- 慢性合併症治療病院
(・眼科医・腎臓専門医
・神経専門医の所属病院)
- 急性増悪時治療病院

* 沖縄県医療連携体制推進事業より

低い 重症度 高い